



日本保11第84号

性能受託試験証明書

長野県下伊那郡松川町上片桐4604

竹村工業株式会社

代表取締役社長 竹村 弘實 殿

本会の木材保存剤及び保存処理木材等の性能受託試験規程により、下記のとおり
性能試験の結果を添えて証明致します。

平成11年10月25日

社団法人日本木材保存協会

会長 西本 孝



記

品目（用途）	高圧木毛セメント板
製 品 名	TSボード
試 験 項 目	耐朽性試験
試 験 方 法	社団法人日本木材保存協会規格 第3号 「木質材料の耐朽性試験方法」
試 験 年 月 日	平成10年8月～平成11年10月
試験担当機関	京都大学木質科学研究所木質材料機能部門 複合材料分野 教授 今村 祐嗣
試 験 結 果	別添のとおり

竹村工業株式会社殿

TSボードの耐朽性試験結果

京都大学木質科学研究所

教授・今村祐嗣

試験材料

高圧木毛セメント板

TSボード

対照材（ブナ辺材）



試験方法

耐朽性試験は、日本木材保存協会(JWPA)規格の第3号-1979の『木質材料の耐朽性試験方法』にほぼ準拠して行ったが、その概略は以下の通りである。

すなわち、供試菌として褐色腐朽菌のオオウズラタケ(*Fomitopsis palustris*)と白色腐朽菌のカワラタケ(*Trametes versicolor*)を用いた。保存菌株（オオウズラタケ FPRI-0507, カワラタケ FPRI-1030）を液体培地で振とう培養して得た菌糸粒を、マヨネーズびんに石英砂と培養液（グルコース、ペプトン、麦芽抽出液の組成）を入れた培地に振り掛け静置培養した。

菌そうが十分広がったところで、ガス滅菌した試験体（25 x 25 mm x 試験体厚さ）を培養びん中に設置し、26℃の培養室内で3ヶ月間腐朽させた。

試験体は腐朽操作の前後、60℃で乾燥させて恒量(W1, W2)を求めた。試験体の重量減少率は、 $[(W1 - W2)/W1] \times 100$ で計算した。

試験結果

オオウズラタケ

試 料	質量減少率（％）			
	最小	～ 最大	平均	標準偏差
T S ボード	0	0	0	0
ブナ辺材	21.8	32.3	26.7	3.4

カワラタケ

試 料	質量減少率（％）			
	最小	～ 最大	平均	標準偏差
T S ボード	0	0	0	0
ブナ辺材	32.4	46.0	37.0	5.0

注：繰返し数は各々9個。

T S ボードは、試験終了後の質量が試験前より増加していたので、減少率は0とした。